

TAKE FREE



奥多摩で、
とつておきの
キャンプ時間

Our Favorite Campsite

BLUE+ GREEN JOURNAL

Okutama Town Official Magazine

奥多摩町公式タブロイド

#10
Tenth ISSUE

Our Favorite Campsite

奥多摩で、とっておきのキャンプ時間

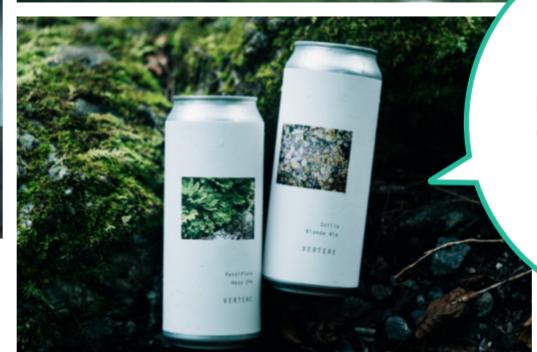


遊ぶ、食べる、語らう、寝る。特別なことをしなくていい。
テントと寝袋と焚き火台、そしてビールさえあれば、それで最高。
森と清流に恵まれた奥多摩で、格別なキャンプ体験を。



奥多摩町民が奥多摩で過ごす、初めてのデイキャンプ

Our Favorite
Campsite



奥多摩土産として
も人気のバテレの缶
ビール。商品を固定せず、
常に新しい味をリリース。
キャンプ、BBQのお伴
に最高の相棒だ。

#01

アメリカ キャンプ村

「ここでビールを飲んだら、最高に気持ちよかったです」という子供たち

奥多摩で、極上のクラフトビールを展開するブルーパブ「バテレ」。その共同経営者・鈴木光さんは、6年前、福岡から移住。無数にある選択肢の中から奥多摩町を選んで理由のひとつを、そんな風に語っている。豊かな自然と清涼な空気。確かに、そんな環境の中で味わうビールは格別に美味しい。オープン後、たちまち人気店となった「バテレ」は、現在、缶ビールの販売にも力を入れ、全国に熱烈なファンを増やし続けている真っ最中だ。

そんな鈴木さんの休日は、やはり「ビールをおいしく飲むこと」に比重が置かれているのだそう。家族で外出して、子どもが遊ぶ様子を見守りながら缶ビールをブショウ。それが至福の時間だという鈴木さんは、小石を拾っては川に投げ、満足げな様子。然くんは、水鉄砲を片手に足先だけ入水。その冷たさに最初はへっぴり腰だったものの、小魚を発見するや、サブサブと川の中へ。自然と戯れながら、子ども達の好奇心も全開だ。

ひとしきり遊んだら、BBQの準備。小枝を家族みんなで拾い、火付けの燃料にする。パパと娘くんで、ちょっぴり苦戦しながらも火起こしに成功。その間に女性陣は、野菜をスライス。娘ちゃんは、初め

ん(6歳)、長女の倫ちゃん(3歳)の4人家族。子ども連れのキャンプといふと、準備に遊びに後片付けに、と何かと手が掛かりがちだ。しかし、その点

「アメリカキャンプ村」は、子連れにも嬉しい要素が揃っていた。まず、バーベキューは食材さえ用意すれば、手ぶらでOK。調理器具や燃料など必要なものはすべてレンタル可能だ。そして、メインアクティビティとなる川遊びの環境だって万全。水深が浅く、穏やかな小川が場内を流れ、小さな子供でも安心して遊べるというわけだ。さらに、6歳以上から楽しめるワイルドなアスレチックも完備され、一日居ても飽きることがない。

さて、予約しておいたBBQスペースに陣取り、子ども達は早速、せせらぎへ。ママと手を繋いだ娘ちゃんは、小石を拾っては川に投げ、満足げな様子。

然くんは、水鉄砲を片手に足先だけ入水。その冷たさに最初はへっぴり腰だったものの、小魚を発見するや、サブサブと川の中へ。自然と戯れながら、子ども達の好奇心も全開だ。

ひとしきり遊んだら、BBQの準備。小枝を家族みんなで拾い、火付けの燃料にする。パパと娘くんで、ちょっぴり苦戦しながらも火起こしに成功。その間に女性陣は、野菜をスライス。娘ちゃんは、初め

ての包丁体験に目を輝かせた。そんなこんなでお手伝いと遊びの間を行き来しながら、BBQスタート。続々と焼き上がる肉や野菜。夢中で食べる子ども達。大人達はここでようやく缶ビールを開け、喉をググッと鳴らす。ああ、美味しい。

「色々揃えなきゃいけないものもありそうで、なかなか重い腰があがらなかったけど、キャンプ、ちょっとやってみようかな」と、家長がひとこと。

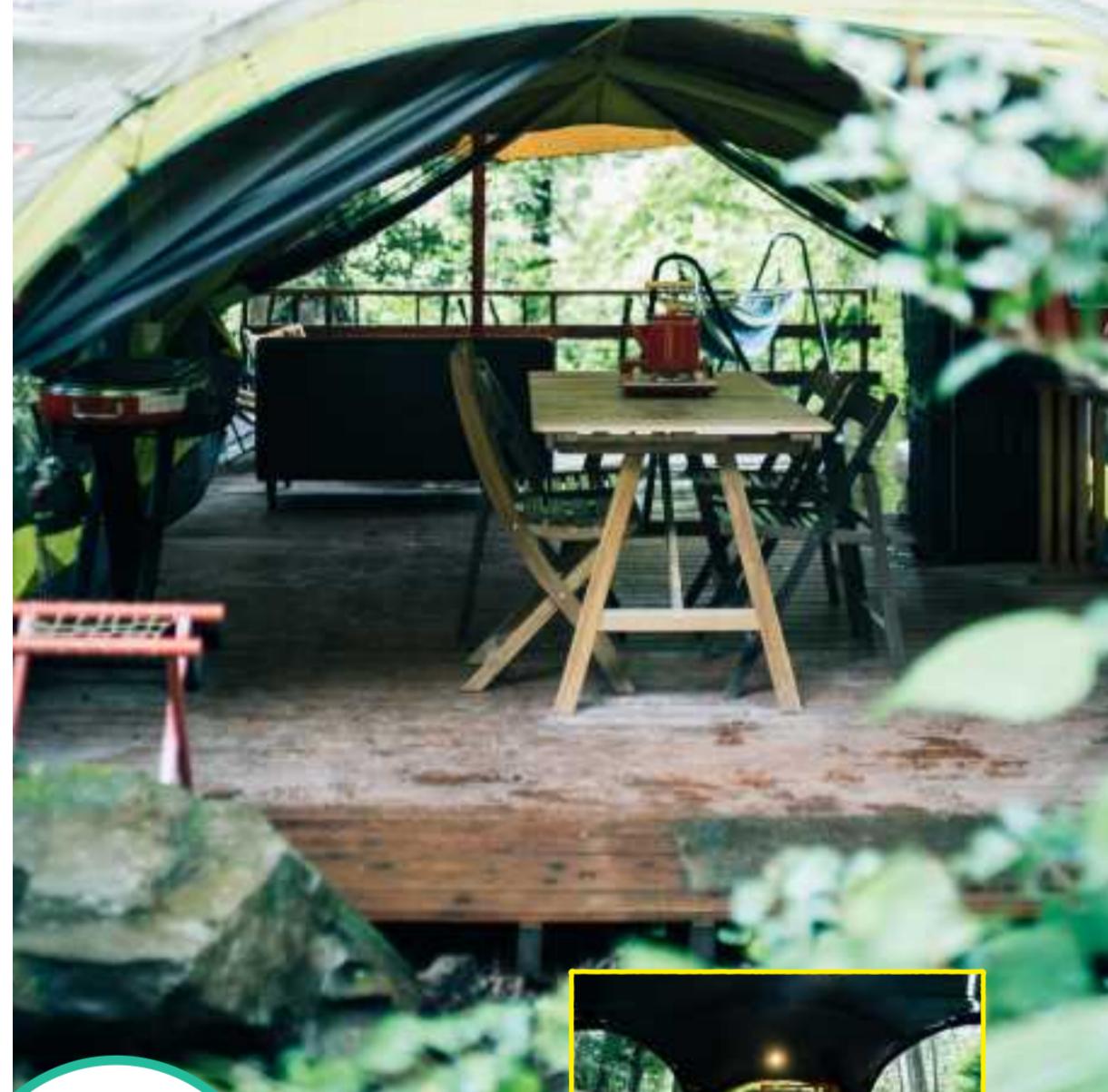
奥多摩に居を構えていても、意外と知らない充実したこのエリアのキャンプ事情。週末毎にひとつひとつキャンプ場を巡ってみても、新鮮な感動がきっとあるだろう。確実に言えるのは、そんな休日のビールはとびきり美味しいってことだ。

DATA

奥多摩町海澤 230 tel. 0428-83-2724
<https://www.americacampmura.jp>
駐車場: 100 台(普通車1台1,000円)
設備&ツール: コテージ / リーフハウス / シャワー /
レンタル可能用品: (調理用具、BBQ用具、寝具)
利用料金: 宿泊 ログハウス / 32,000円~ (シーズンにより変動あり) デイキャンプ 入場料 大人1,200円、子ども(3歳以上小学生以下) 600円、
アスレチック 大人1,000円、子ども500円
備考: 冬期(12月~3月)休業



Okutama Campsites Guide



デザイン性に富んだグランピング施設で、極上の自然体験を。

#02 奥多摩 グランピング リバーテラス

それぞれのウッドテラスに
それぞれの
プライベート空間が展開

JR古里駅から歩いて15分ほど。多摩川の清流を眼前にした絶好のロケーションに遊びゴコロ満点の日帰り専用キャンプサイト「リバーテラス」が見えてきた。まずは敷地内を散策すると、3~5人用のウッドテラスが合計3か所。それぞれのデッキが独立した空間を構成しているため、グループ毎にプライベートな時間を楽しめるのがこのキャンプサイトの特徴だ。もとは別のキャンプ場でキャンツールのレンタルを行っていたというオーナーのカズさん、どのような経緯でこの「リバーテラス」を立ち上げに至ったのか聞いてみた。

「道具をレンタルするだけじゃなく、もっとゲストに喜んでもらえるようなことを提供したいと考えるようになりました。私には小さい子どもがいて家族連れのキャンプがいかに大変かも分かっていた。ならば、大人も子どもも思い切りリラックスできて、安心して楽しめる場を作ってしまおうと考えたんです」

奥多摩にはいくつも個性的なキャンプ場があるものの、これだけプライベート空間が確保された場は他はない。誰にも邪魔されず自分たちのグループだけ楽しむには極めて恵まれた環境だ。「たくさんの人を受け入れるのではなく、個別の空間を大事にしたかったんです。隣のグループの音がうるさいなんてこともあります。主役は周りを囲むワイルドな自然環境なので、豪華な設備や過剰な装飾も止めました。あくまでナチュラルな空間作りを大切にすることで、森や滝、新緑や紅葉に包まれる感覚をより楽しんでもらえるのかなと思っています」

ナチュラルなキャンプ時間を楽しむのももちろんいいが、奥多摩産の鹿肉BBQや秋川牛のステーキなどを堪能できる豪華なジビエコースランチやバースディ用のサブライズケーキサービスなど、手ぶらでゴージャスな一日を楽しめるプランもあり。さらにはリモートワーク専用のテラスも新設され、ダイナミックな自然の中で仕事に打ち込むなんという利用法も。

「これから季節は虫も少なく、葉っぱが落ちるため日当たりもいい。静かな休日を過ごすなら冬もオススメ。夏だけに限らず、奥多摩の四季の魅力を身体で感じてほしいですね」

DATA

奥多摩町棚澤16-1
tel: 090-3518-2516
<https://riverterrace.cafekuala.jp/>

駐車場:専用駐車場あり(要予約)
設備&ツール:ウッドテラス、リバーサイドダイニング、自立式ハンモック、ガスBBQグリル、食器、クーラーボックスほか
利用料金:9,000円~/1名(施設利用、食事、食後ドリンク)
備考:完全日帰り型施設/1日4組限定(1組の定員3~5名)/BBQ食材の持ち込み不可/ペット不可

#03 なかちや 中茶屋キャンプ場

森の中、川辺など自由に選べるバンガローが楽しい

JR川井駅近くの山道を車で駆ける。標高がグングン上がるのを肌で感じながら山道を進むと、ひとけのない大丹波川のほとりに中茶屋キャンプ場が見えてくる。ダイナミックな自然景観を活かしたこのキャンプサイトには14のバンガローが点在。まるで自分の別荘に来たかのようなプライベートタイムを楽しめるのが最大の特徴だ。オーナーの須崎政博さんは自身のキャンプ場についてこう説明する。

「バンガローは川辺や森の中など様々な環境にあって自由に選べるほか、空いてるスペースにはテントを張ることもできるし、車を横付けにしてオートサイトとして楽しめるスペースもあります。ファミリーや大勢のグループもいれば、ソロキャンプを楽しむ人も最近は多い。実際に多様な楽しみ方を提供できるのがこの中茶屋キャンプ場なんです」

美しい大丹波川にはすぐアプローチできる上、川の水深は深くとも1.5m程度と、子どもでも安心して遊べる。川がこれだけ近いからヤマメやマス釣りを存分に楽しめるほか、昆虫採集などにも最適なロケーション。また、屋根のついた炊事場も完備しているので雨が降ってもBBQを楽しめるなど、キャンプ初心者でも安心だ。

「学童のキャンプなどでは希望に応じて流しうさぎを楽しめるサービスなども提供しているん

です。付近の竹を自分たちで切ってもらって僕らがそうちを流せるよう組み立てます。大自然の中で楽しむ流しうさぎは格別ですよ」

これまでこの場所で結婚式を挙げたカップルも5組ほどいるとか。上游からボートで下ってキャンプ場で皆がお出迎えする結婚式なんて他ではなかなか実現できない。

「今後は新しくログハウスを作って冬場でも薪ストーブを焚いて楽しめるような場を提供していきたい。敷地が広いからまだまだやれることはありますし、リピートしてもらえるようたくさんの企画を用意しておきたいですね」

森や川を独り占めしたかのような感覚に浸れるこのキャンプ場。この場所だけに流れる静かな時間を存分に楽しみたい。

DATA

奥多摩町大丹波478
tel: 0428-85-1597
<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~nakachaya/>
駐車場:専用駐車場あり
設備&ツール:森の中のバンガロー8、川辺のバンガロー6、テントサイト、オートサイト/炊事場、コインシャワーなど/毛布や布団、鉄板、鍋、炊事小物、冷蔵庫のレンタル完備
利用料金:8,000円~/1部屋1泊、1,000円/日帰り利用(大人1名) 備考:ペット不可



Okutama
Campsites
Guide

#04

山のふるさと村

充実の設備と圧倒的な環境。

奥多摩が誇る

万能型キャンプサイト

奥多摩町の西端、数あるキャンプ場の中でも最も広大な敷地を有するのがここ「山のふるさと村」だ。秩父多摩甲斐国立公園内の通称「山ふる」で知られるこのエリアは総面積 31ha、奥多摩湖にそぞり込むサイグチ沢に沿って作られたダイナミックな自然を楽しめるスポットだ。キャンパーにとってうれしいのは、テントサイト 25 区画、BBQ サイト 10 (テーブル)、大中のケビンが計 10 棟と、あらゆるキャンプスタイルに対応してくれる点。テント泊が初めてのビギナーでも、高山で泊ものスタイルを好む経験者でも、それぞれに満足できる施設と自然がここには待っている。キャンプ場を統括する木宮則徳さんはこう話す。

「恵まれた自然、整った施設を好んでいただけるキャンパーは多く、年間およそ1万2千人の方がこの場所でキャンプを楽しめています。近年ではキャンパーの趣向も少し変わってきたようで、一人で楽しむソロキャンパー、人の少ない冬を狙ってくるキャンパーなど、それぞれのキャンプスタイルに幅が出てきたんだなと感じますね」

園内は猿や鹿、モモンガなど多様な動物たちが出没するほど濃い自然がありながら、国立公園の中にあって常に人間がいるという安心感もある。園内にいるだけでは満足できないなんて時は、奥多摩三山のひとつである三頭山への登山に日帰りでチャレンジするのもいい。アイデア次第で自らのキャンプスタイルにいくらでも変化をつけられるのが「山ふる」の利点だ。

園内を見て回るとやっぱり美しいケビンサイトに目が止まる。閑静な別荘地のような佇まい。こんな素敵な場所にこもって数日、ワーケーションなんていのも最高だろう。

「広々したベッド、キッチン、シャワー、冷蔵庫、暖房などここにこもって楽しめるよう、十分な設備を整えています。ケビン泊は、四季を通じて非日常を味わえる選択だと思いますね」

敷地内には、木工や陶芸、石細工教室など様々な体験もできる「クラフトセンター」や、居心地のいいレストラン「ごはんカフェやませみ」なども。滞在中はたっぷりと、この充実した環境を利用し尽くしたい。



DATA

奥多摩町川野1740
Tel: 0428-86-2324 (キャンプ場サービスセンター)
<https://www.yamafuru.com/>

駐車場:無料駐車場あり(41台)

設備&ツール:テントサイト(25区画)、ケビンサイト(4人用12室6棟・8人用4棟)、バーベキューサイト、ファイヤーサークル、シャワー室、売店、ビジャーセンター、クラフトセンター、レストラン「ごはんcafeやませみ」洋式トイレ、湖畔広場、送迎バス、貸しテント、寝袋レンタルなど
利用料金:テントサイト(大人)200円/泊、テントサイト(小・中学生)100円/泊、ケビンサイト20,000円(8人用)/泊、ケビンサイト10,000円(4人用)/泊



#05 氷川キャンプ場

アフターキャンプの
充実も見逃せない

JR 奥多摩駅から徒歩 5 分とアクセス抜群。河原のフリーサイトは広々と開放感があり、直火での焚き火が可能な点もうれしい。テントを張って静かにソロキャンプを楽しむもし、大勢でバーベキューhausを利用したお手軽キャンプもよし。視界が開け、安心感あふれる環境が、ビギナーにもファミリーにも最適だ。コインシャワーやカフェ、徒步圏内にはコンビニ、温泉施設があり、アフターキャンプの充実も魅力のひとつ。

DATA

奥多摩町氷川702 Tel: 0428-83-2134
<https://www.okutamas.co.jp/hikawa/>
駐車場:駐車場あり(約50台)
設備&ツール:ロッジ(7棟)、バンガロー(27棟)、カフェ、バーベキューhaus、コインシャワー、調理用具レンタル、食材販売、寝具レンタルなど
利用料金:ロッジ37,500円~(5人用/1泊)、バンガロー5,000円~(2人用/1泊)



#06 境渓谷キャンプ場

ひっそり静かに
奥多摩を楽しみたいなら

JR 奥多摩駅からさらに西へ。ひとけのない環境で大自然を楽しむにはうってつけのロケーション。美しい緑の山々に囲まれ、付近を流れる川では思う存分遊びが可能。充実のバンガローが 9 棟あり、基本的にはバンガロースタイルで優雅に楽しむのが境渓谷流だ。キャンプ場近くには奥多摩を代表するトレッキングコース「奥多摩むかし道」があるので、キャンプとハイクを組み合わせるのも楽しい。大規模なキャンプサイトも楽しいけど、ひっそりと奥多摩を楽しみたいという方向性に。

DATA

奥多摩境118-1 Tel: 0428-83-3410
<https://sakaikeikoku-c.jimdofree.com>
駐車場:駐車場あり(約13台)
設備&ツール:バンガロー、テントサイト、温水シャワー、炊事場、バーベキュー場(屋根付き)、炊事用品レンタル、寝具レンタルなど
利用料金:バンガロー9,000円~(4人用)、ディキャンプ600円



#07 川井キャンプ場

広大な敷地で、
ここにしかないキャンプ体験を

JR 川井駅から眼下を見下ろせば、広大なキャンプサイトの景色にきっと圧倒されるだろう。気持ちよい川の付近にテントを張るもよし、奥多摩産材で作られた雰囲気満点のログハウスに泊まるもよし。冒險気分を追求したいなら林間テントサイトを利用して静かな時間を楽しむのもいい。奥多摩でも随一の開放感が得られるキャンプサイトだから、どんなスタイルにも対応可能だ。日帰り専用のドッグサイトや近隣ではカヌーツアーなどのイベントもあり、他とは違ったキャンプ体験が得られるはず。

DATA

奥多摩町梅澤187 Tel: 0428-85-2206
<https://www.okutamas.co.jp/kawai/>
駐車場:駐車場あり(約10台)
設備&ツール:ロッジタイプ(2棟)、ログハウス(13棟)、バンガロー(12棟)、バーベキューhaus、水洗トイレ、テントサイト、日帰り専用バーベキューサイト、日帰り専用ドッグサイト、バーベキュー用食材販売、調理器具レンタル、燃料販売、寝具レンタル、椅子やクーラーバッグなどのレンタル
利用料金:ロッジタイプ42,500円~(5人用)、ログハウス5,000円~(2人用)、林間テントサイト4,000円~(3人用)、バーベキューサイト8,500円~(4人用)、バーベキュー備品付き、河原テントサイト1,500円~(1人用/1泊)、河原ディキャンプ1,000円(1人)



#08 清東園キャンプ場

ゆったり、のんびり、非日常を

JR 川井駅から大丹波川を川上に向かい、車で約 15 分。隠れ家ムード満点のロケーションはこのエリアのキャンプサイトの持ち味だ。川沿い約 300m の土地を利用し、バンガローやテントサイトが点在。川までは道路からスロープを利用して 10m ほどと荷物を運ぶにも抜群の環境だ。運営方針は「ゆったり、のんびり、非日常」。こうしたフレーズ通りの休日を存分に楽しめるだろう。ビギナーからベテランまで、誰にも邪魔されず、静かなキャンプを実現したいなら有力な選択肢だ。

DATA

奥多摩町大丹波562 Tel: 0428-85-2789
<https://seitouen.com>
駐車場:駐車場あり(約20台)
設備&ツール:山荘(2棟)、川のたもとのバンガロー(5棟)、山のバンガロー(3棟)、テントサイト、集会室、シャワー、鍋や釜レンタル、網と鉄板レンタルなど
利用料金:山荘12,000円~(7人用)、川のたもとのバンガロー6,000円~(3人用)、山のバンガロー16,000円~(8人)、テントサイト3,000円~(3人まで)



#09 奥茶屋キャンプ場

ファミリー層に最適な安心感

多摩川の支流、大丹波川のせせらぎをたっぷりと楽しめるロケーション。コテージ、バンガローなどではなくテントサイトのみの素朴な環境がまた奥多摩らしい。川の水は透明度抜群で、ファミリーでも安心して遊べる深さ。自分たちで設備をしっかり用意し、自立したキャンプを楽しみたいなら最適なキャンプサイトだと言えるだろう。テントは最大でも 10 張とほとんど他のグループが気にならないレベル。ここが東京都と聞くと誰もが一瞬、目を疑う絶景を堪能あれ。

DATA

奥多摩町大丹波498 Tel: 090-2933-9644
駐車場:駐車場あり(約13台)
設備&ツール:コテージなし、バンガローなし、テントサイト(10 張)のみ、水洗トイレ、薪割り放題
利用料金:入園料1,000円



#10 百軒茶屋キャンプ場

清流を見渡せ、
箱庭的美しさを堪能

奥多摩にあまたあるキャンプ場の中でも老舗中の老舗。JR 川井駅から大丹波川を上流へ。敷地面積約 2000 m² と十分な開放感はありながら、川の清流を広く見渡せるロケーションなのでファミリーでも安心。バンガローは 8 棟ほどあり、団体の貸し切り利用にも人気が高い。ただひたすら清流と緑と鳥たちの歌を楽しみながら、自分だけの時間に浸れるこのキャンプサイト。キャンプファイヤーや BBQ、ニジマスのつかみどりなど、思う存分、非日常を満喫したい。

DATA

奥多摩町大丹波488 Tel: 0428-85-2532
<https://www.hyakkenjaya.com>
駐車場:駐車場あり(約15台)
設備&ツール:バンガロー(8棟)、テントサイト、炊事場、バーベキュー場、コインシャワー、水洗トイレ、夜間照明、調理器具レンタル、寝具レンタルなど
利用料金:バンガロー3,500円~(3畳)、ディキャンプ700円、テント1,000円(1泊)





コンビニ & 商店 & 各種専門店

食材、飲み物、そのほか
キャンプ用の雑貨調達に

3 デイリーヤマザキ

奥多摩町氷川173

TEL:0428-83-2469

1 まるにや肉店

奥多摩町氷川173

TEL:0428-83-2418

2 一松肉店

奥多摩町氷川192

TEL:0428-83-2418

温泉

キャンプの後にゆっくりと

17 もえぎの湯 / 温泉

奥多摩町氷川119-1

TEL:0428-82-7770

名所

キャンプ+ブチ観光のススメ

18 鳩ノ巣渓谷

奥多摩町棚沢

(JR鳩ノ巣駅から徒歩10分)

19 白丸ダム

奥多摩町棚沢

(JR鳩ノ巣駅から徒歩10分)

20 日原鍾乳洞

奥多摩町日原

(奥多摩駅からバス約35分)

21 海沢三滝

奥多摩町海沢

(JR奥多摩駅から車で約25分)

22 百尋ノ滝

奥多摩町氷川

(JR奥多摩駅からバスで約15分
+徒歩約90分)

釣り場

キャンプの後に
フィッシングはいかが?

23 大丹波川

国際虹ます釣場

奥多摩町大丹波14

TEL:0428-85-2235

24 峰谷川渓流釣場

奥多摩町川野529

TEL:0428-86-2623

25 氷川国際ます釣場

奥多摩町氷川397-1

TEL:0428-83-2147

26 日原渓流釣り場

奥多摩町日原1048

27 TOKYO トラウトカントリー

奥多摩町トロウトカントリー

奥多摩町トロウトカントリー

BBQ RECIPE



炭火でじっくり! キャンプで食べたい、 絶品 BBQ レシピ

奥多摩町のお隣、JR 御嶽駅より徒歩1分の「駅前 BBQ B-YARD」。ここは、BBQ 演出家*の金子明弘さんが全面プロデュースした BBQ スペースだ。食材、調理器具、食器などはすべて店側で準備し、客は手ぶらで訪れて、焼くだけ。その焼き方も、BBQ インストラクターの資格を持つスタッフがアドバイスしてくれる。

*日本の BBQ は火を起こす、肉を焼くのがメイン。一方、アメリカや他の国では、調理が主体ではなく、人との交流がメインです。アウトドア料理を作ることではなく、作った後が大事。焼き方のコツをここで覚えてもらって、本場の BBQ の楽しさ、美味しさをもっと身近なものにしてもらいたいんです！

青梅に生まれ育ち、家族での BBQ やキャン

プが日常だったという金子さんが、本場アメリカンスタイルの BBQ に出会ったのは約10年前。日本における新しい BBQ 文化の創造と発展を目指す「日本バーベキュー協会」の存在を知って、衝撃を受けた。大きなステーキや肉の塊を豪快に焼く BBQ は、日本のソレとはまるで別物。その魅力と奥深さに惹かれ、スペシャリストになることを決意。現在も多彩な活動を続けている。

そんな金子さんに、すぐに実践できる BBQ のコツを教えてもらった。日本と本場 BBQ の大きな違いのひとつは、焼き方だ。アメリカでは、庭に

か
こ
ン
タ
ン
!
使
え
ば



「御岳 ハーブチキン グリルソース」800円
金子さんがプロデュースしたオリジナルソース。内容量は300g。鶏モモ肉1枚の漬け込みなら約15回分。奥多摩駅2階「ポートおとたま」など、奥多摩町内でも販売。



PROFILE
金子明弘さん

BBQ 演出家*。2019年に「駅前 BBQ B-YARD」をオープンし、同年には BBQ 世界大会である「メンフィス・イン・マイ・ワールドチャンピオンシップ BBQ クッキングコンテスト」に出場。2021年夏には、肉の塊を薪や炭で長時間焼しながら調理ができるスマートーカーを装備した、唯一無二の BBQ トラックをスタート。

HOW TO



01 本来は蓋付きグリルがベスト。既存のBBQ台に、バットを被せて蓋代わりに使うのも手。



02 すべての材料をジップロックに入れて鶏肉を漬け込む。3時間ほど置くと味が染み込んで美味しい。



03 両サイドが強火、真ん中が弱火。強火で皮に焼き目をつけたらひっくり返し、蓋をして弱火でじっくり焼く。



04 クッキング温度計で肉の中心まで焼けたかを都度チェック。鶏肉は70度が目安。



05 野菜は切らずに、オリーブオイルを刷染ませたあと、ホールで焼く。ジューシーな味わいに。



06 鶏肉の中心まで火が通ったら、まな板の上で2~3分鶏肉を休ませる。切り分けて盛りつけたら完成。

ギア選びはキャンプの大きな楽しみ。ここでは本格的のキャンプで使うというユニークなアイデアをご紹介。

CAMP TOOLS SIDE NAVI



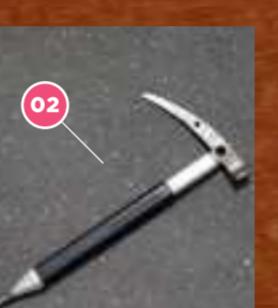
チョークバッグ

クライマーが指のグリップ力を増すために使用するチョーク。これを入れるためのバッグはデザインもユニークで使い勝手が豊富。腰にぶら下げておけば、キャンプ中に使うグローブやベグなど、様々な小物を入れておくことができ便利だ。



クライミングロープ

山登りに使うクライミングロープが一束あると、アウトドアでの活動において何かと活躍してくれる。頑丈そうな木と木の間にロープを張り巡らせ、軽めのモノを吊るしたり、短く切って荷物をまとめるのに利用したり。スポーティな柄も良い感じ。



ピックル

無骨なルックスが物欲をそそるだけでなく、アウトドアでは重宝するピックル。地面に穴を開けるだけではなく、ハンマーとしても使える。木の実を割ったり、食材を碎いたりと調理の際にも使えるかもしれない。



カラビナ

いくつ持っていても便利に使えるカラビナ。イメージで小物を引っ掛けられるキャンプ中のスーパーツールと言っていいだろう。色や大きさなどバリエーション豊富で、家でも何かと使えるので日常的にコレクションしておきたいアイテム。



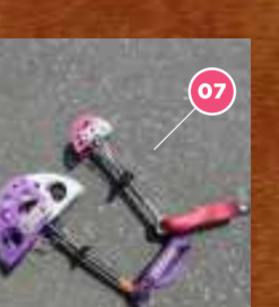
GIコット

本来は軍用の野営簡易ベッドで、アウトドアアクティビティの際にはタフな椅子として、寝心地抜群のベットとして、小物置き場としてユーティリティ性を發揮してくれる。組み立て簡単なので車に積んでおきたいツールのひとつ。



ハンモック

アウトドアで一度でもハンモックを体験すれば、その極楽度が分かるだろう。お昼寝はもちろん、地面がぬかるんいる時のキャンプでも威力を發揮してくれるはず。家でも使えば決して無駄な買い物にはならないだろう。ワンランク上のキャンプを求めるなら要検討。



カム

トリガーを引いて岩の裂け目に差し込むことでガッチリと身体をホールドする、クライマーの墜落防止アイテム。キャンプ中、岩の裂け目にカムを一個ましておくと、モノを吊るしてホールドするのに便利。なによりルックスも可愛くオシャレな点が◎。



2バーナー

キャンプ中のクッキングをよりグレードアップさせたいなら2バーナーがいい感じ。カセットガスでさっと調理する分はこっち、豪快に焼きたいものは焚き火台といった具合に、使い分けることでキャンプの楽しさがグンと増す。写真は SOTO ST-522。



サーマルシート

本来は、保温力をさらに高めるため、寝袋の中に入れて使用するシート。保温性と速乾性に優れているため、これ単体でも敷物として機能する。ちょっとウェットな地面の時、フカフカな寝心地を追求したい時、キャンプでも威力を発揮する。



NAVIGATOR
ヒロ遠藤さん

奥多摩、御岳、吉祥寺で展開する中古アウトドアギアショップ「maunga」の中心人物。仲間内で物語交換していたことが中古ギア販売店スタートのきっかけとなる。キャンプ、ハイク、クライミングなどを趣味として、アウトドアギア関連の知識はもちろん高いレベル。本ページのギアはマウンガの在庫からセレクトしてもらった。
2nd hand outdoor gear store maunga(マウンガ)
東京都青梅市御岳本町359
TEL:0428-74-9235

“
タフなクライミングツールは
キャンプの時に
意外な使い道があるだけでなく、
デザインもユニーク。
自分なりの使い方を
考え出すのも楽しみのひとつです”
”

奥多摩に点在するキャンプ場を縫うように流れれる清流。その川辺には、大小様々かつ、色かたちとりどりの石が無数に転がっている。そんな自然の石たちを活用するアート遊びが、ロックバランスングだ。日本における第一人者の石花ちとくさんは、その魅力をこう語る。

「石が立つ瞬間は、まさに感動体験。僕自身、最初に石を立てたとき、神がかり的だったんですよ。濱け物石のような石が、ビタッと垂直に立って。あるいはのないことが起こっちゃったっていう感覚。その瞬間に脳内麻薬が出ちゃって。もっと気持ち良くするにはもっと際で、もっと複雑に、とエスカレートしていくんです」

ロックバランスングとはつまり、石積みのこと。ただし、石を積木のようにしてただ「平積みにしていく」わけではなく、美しいかどうかを基準に「石を立てていく」のが基本になる。まるで生け花のように。そのため、ちとくさんはロックバランスングが日本で認知されるずっと以前からこの活動を「石花（いしはな）」と名付け、独自に続けてきたそうだ。

「最初は一個でもいいから立ててみる。そうすれば、作品になります。置いたときに必ず美しい姿っていうのがある。日本人ならわかる感覚で、キュッとしたクビレがあったり、しなっていたり。僕自身は、斜めった感じが好きで、「弓張りの型」と呼んでいます」

普段は、同じ多摩川でも立川周辺の下流域で活動することが多いというちとくさん。上流域である奥多摩の石の特徴について、こう話す。

「奥多摩は石灰岩がすごく多い。昭島、立川あたりだとまたにしかない。あとやっぱり大きめの石が多く、台座を探すのにもぴったりです。地表に出ている岩も大きいので、あいう岩盤を台座にすれば、ビタッと立つの瞬間、地球との一体感を味わえますよ」

ちとくさんのSNSを覗くと、まるで重力に逆らったかのようなアート写真が満載。確かにこれは神がかっているとしか言えない。

「すごいのは、僕じゃなくて石。立たせるとのポイントは、ダメかな、無理かなって絶対に思わないこと。立つ!って思ってやることが大事。信じて立った瞬間は、ソワッて快感が全身を走ります」

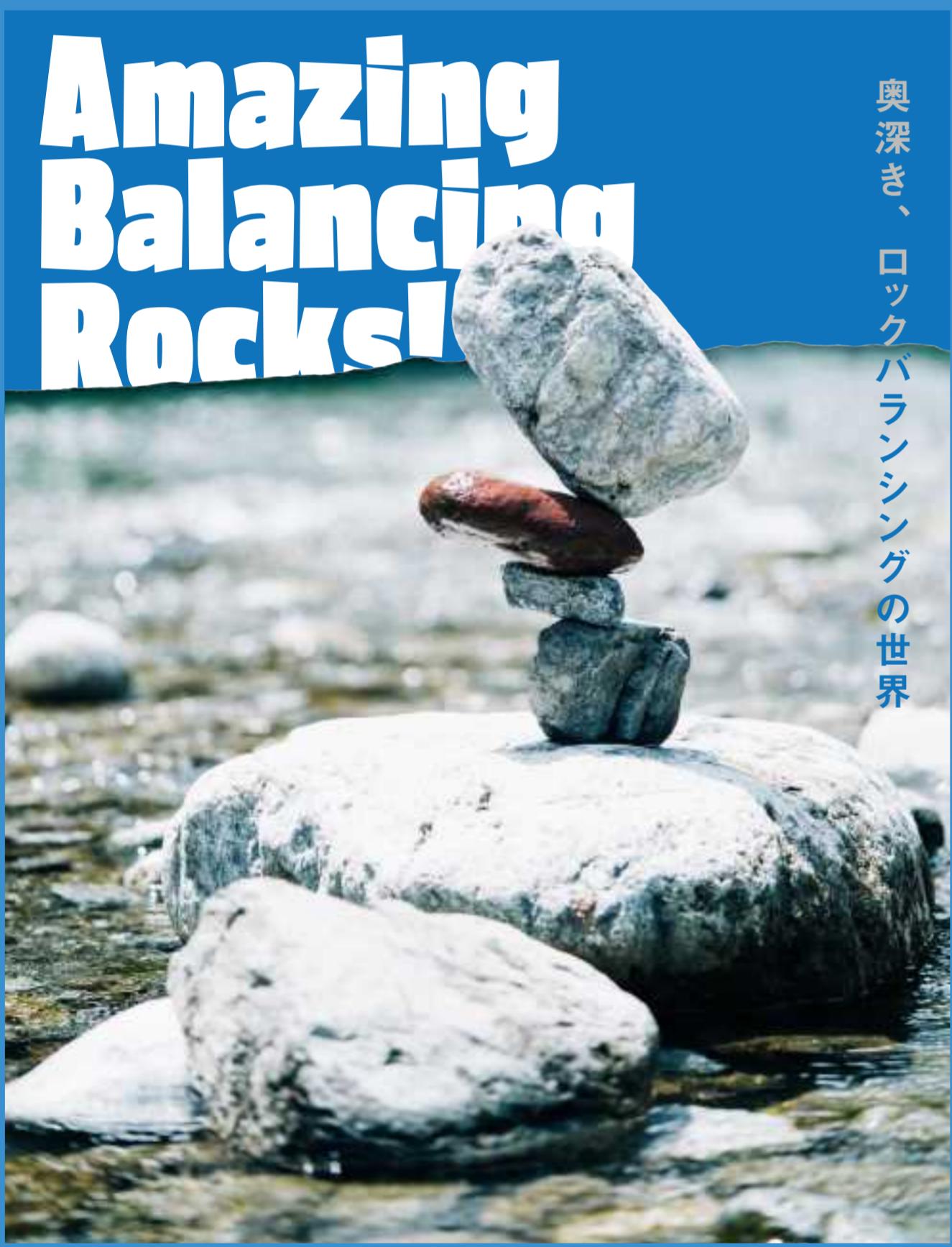


PROFILE
石花ちとくさん

石花師。日本のロックバランスング第一人者。2009年頃から本格的に石積み遊び開始。2011年からSNSで世界中のロックバランスングアーティストと交流。2012年9月に石花会発足。ロックバランスング研究所主宰。
<https://rockbalancing-lab.i-shihana.jp>

Amazing Balancing Rocks!

奥深き、ロックバランスングの世界



自然の岩を活用し、アート性を高める
露岩の岩こそ、最高の台座だ。地表に出てる岩とは、つまり、大地そのもの。その岩盤に石が立った時は、地球との一体感を味わえる。

O円空家バンク物件をリノベーションして新名所に

JR 奥多摩駅から奥多摩湖まで続く、旧青梅街道「奥多摩むかし道」。集落や神社、縁結びの地蔵尊など、古き良き奥多摩の風景を楽しめる約10km の人気コースに、新名所誕生の計画が浮上している。場所は、しだくら吊橋の少し先にある「馬の水飲み場」の斜面をのぼったところ。馬こそが重要な交通・輸送手段であったかつての時代には、ここで馬を休ませ、茶屋で一服する客が多かったのだという。

「そんな歴史を踏まえて、ここにBBQ施設、キャンプサイト、サウナ、ゲストハウス、バーを併設した茶屋『馬方の衆』をオープンしようと考えているんです」

そう切り出したのは新たにこの土地のオーナーになった石居薰さんだ。奥多摩町が昨年度から始めた革新な取り組み、「O円空家バンク」制度。空き家の管理に囲み、O円でも手放したいという家主と、定住希望のみならず、家屋、アトリエ、倉庫、別荘などとして使いたい人を結び付けるというものだ。ここに登録されていた同物件のことを石居さんが知り、見学に行つたのが去年の7月のこと。築110年の木造家屋は、壁も天井も崩れしており、傷みが激しかったが、同行した大工の棟梁から「材木も技術も高いレベル。立派な大黒柱があるし、甦らせる事はできる」との意見を聞き、購入を決めたという。といっても、O円空家バンクなので、支払ったのは、登記関連の諸経費と税を含めて総額9万円のみだったそうだ。

もともと長年、飲食業のコンセプトメイクやプロデュースを手掛けていたという石居さんは、アイデアにあふれている。『たて場茶屋 馬方の衆』の構想も、実にユニークだ。

「一本立派な木があるのでそれをシンボルツリーにして、その周りにツリーハウスを作りたいな、と。母屋の1階はバーと雑魚寝できるスペース、2階は、ゲストハウスにして宿泊できるよう。あのあたりは、テントを張れるように整えて、隣にサウナ小屋を作る。食事は、バーベキュー協会のインストラクターにメニューをお願いする予定です。将来的には川まで降りて、川遊びもできるようにしたい。ライダーたちがここを目的に来てもいい、通過点のジャンクションみたいにも利用できたり。深夜営業のバーを作るから、奥多摩の人も遊びに来てくれるような場所になったら嬉しいですね」

日々時間をかけてDIYしてはいるものの、現状の完成度は3%程度。それでも未来予想図を語る石居さんの眼差しは本気そのものだ。

「ゴミを片付けるだけでも一苦労。地元の方でも、手伝いをしてくださる方がいたらぜひご連絡ください。ボランティアの方には、オープン後に使える宿泊券をプレゼントしたい」

奥多摩のユニークな新名所づくり。それに関わること自体が、きっと貴重な体験になるに違いない。

ボランティアで手伝ってくださる方はぜひご連絡ください!



旧青梅街道むかし道
たて場茶屋 馬方の衆
〒198-0222 東京都西多摩郡奥多摩町
境字板小屋766番
Tel 070-8427-2966
<http://www.umakata.com>

Featuring New Camping Spot



奥多摩むかし道に、キャンプエリア付きの新名所が誕生!
「たて場茶屋 馬方の衆」

01:建物のすぐ前にたつシンボルツリー。ここにツリーハウスを作る計画。 02:大正元年に建てられた木造家屋。中には土間や囲炉裏が残っている。建03:サウナ小屋にする計画。かつてはお風呂だったそうだ。 04:敷地から見下ろした「奥多摩むかし道」。むかし道から茶屋が見えるように整える計画。 05:2階はもともと蚕部屋だったそう。ゲストハウスの客が宿泊できるよう整備する。



CLEAN, CLEAN Tamagawa-River!

美しく自然を遊ぶ。奥多摩リバークリーン計画



キャンプやBBQを目的に訪れる人も多い奥多摩の川岸は、近年ゴミ問題が深刻だ。明るくポジティブ、楽しい未来を見据えて。多摩川清掃に取り組む人たちがいた。

月曜日の朝6時。奥多摩から青梅へ続く多摩川沿いで、トングを手に携えて練り歩く人たちがいる。視線は主に地面。ときどき顔を上げてはトングで手際よく何かを拾い上げてゴミ袋に入れていく。「ゴミが出るのは、人出のある週末。それで、去年の6月頃から月曜日の早朝にリバーカーリーンをしています。現地集合で、参加は誰でもOK。喋っても喋らなくてもいいし、掃除しながら距離感でコミュニケーションが取れるのもおもしろくて、楽しく続けられています」

そう話すのは、御岳渓谷を拠点にリバーアクティビティを提供する「みたけレースラフティングクラブ」代表の柴田大吾さん。柴田さんは、ラフティングの元日本代表選手であり、ラフティング界のレジェンドだ。リバーカーリーンを始めたきっかけは、2019年

10月の台風被害。橋が流されるなど、フィールドで多摩川が甚大な被害を受け、仲間を集めて川の清掃を実施したのだという。「ゴミを捨つことで地元の人にも喜ばれし、コミュニケーションも広がるし、自分たちのフィールドも遊びやすくなる。これは素晴らしいぞ」と

その後定例化した月曜のリバーカーリーン以外にも、ラフティングとリバーカーリーンを掛け合わせたイベントも不定期で開催。多種多様なゴミの中で特に目立つのは、缶瓶ペットボトルなどの他、キャンプやBBQのゴミだという。

「着火剤や網、トング、炭の入ったダンボールとか。ひどいケースだと、BBQコンロやテント、タープがそのまま捨てられていたり。BBQやキャンプ用品って今どき手頃な値段ですから、グループで割り勘して買って、使い捨てる感覚かもしれないですね」

奥多摩でのキャンプ&BBQルールとマナー



直火は控える



花火禁止



ゴミは持ち帰る・適切に処分する



キャンプ場以外でテントを張らない



騒音を出さない



野焼き(野外焼却)禁止



PROFILE
柴田大吾さん

河川環境に悪影響を及ぼすため、直火での焚き火は控えない。焚き火台やカセットコンロ等を用いて熱が地面に伝わらないよう配慮を。

河川・河岸への花火の持ち込み、および、使用は禁止。だが、残念なことに実際に花火の燃えかすは、奥多摩の河川でもよくあるゴミのひとつだ。

奥多摩では近年キャンプ場以外での、観光客によるゴミ問題が深刻化している。キャンプ場では、ゴミの持ち帰りに際したルールを設けているのでそれに従うこと。

奥多摩は自然公園内であり、自然公園法では有料のキャンプ場などを除く、管理されていない河川等でテントを張ること自体がNG。近隣に住宅があることなどから、騒音が発生する行為は禁止。就寝時間などキャンプ場のルールもよく確認し、周囲の迷惑にならないよう配慮を。

キャンプに限ったことではないが、ゴミや廃棄物の野外焼却行為は、法律で原則禁止されている。ゴミは燃やさず分別ルールに従うこと。



焚き火跡

直火での焚き火をそのままにして帰るのは厳禁。炭は自然に燃えない。また、熱によって石が割れ、ケガを誘引する原因にも。



スポンジなど清掃用品

BBQ用品を洗って持ち帰るため、清掃用品を持ち込む人も。川の水で洗い流すことでも厳禁だ。



金網やトング

BBQ用品は使い捨て感覚で捨てられている。草むらに隠すように捨てられているゴミも多いといふ。



道具

スノーケルやサンダルなど川遊びの道具は、故意ではなく、なくした、忘れただけでゴミになってしまふことがあります。実際に、リバーカーリーンを通じて、それまで接点がなかったような人たちの出会いも増えているのが、おもしろい

アウトドアが楽しめるのも、美しい自然があるからこそ。ポジティブな波紋が広がれば、さらに素敵なフィールドになっていくはずだ。

山鳩／奥多摩町棚澤380 tel. 0428-85-2158 yamabatonosu.com



東京最西端に位置する奥多摩町。近年、自然豊かなこの町に、移り住む人たちが増加中だ。自分らしい生き方を謳歌する移住者へのミニ・インタビュー。

File OT 原島秀伍さん・秋恵さんファミリー



移住・定住応援補助金とは?

奥多摩町で住宅購入、リフォームした場合、10万円以上の事業費を対象に、2分の1以内、現金最大200万円の補助金を交付。対象は、45歳以下の夫婦若しくは子ども(満18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にいる者)がいる世帯、又は35歳以下の単身者、さらに、町内業者・地場木材の活用で各10万円の奥多摩町商業協同組合商品券を上乗せ。

Welcome to OKUTAMA TOWN

東京の森林へ移住定住のススメ

都下での生活と自然豊かな環境を両立する奥多摩町では、移住・定住者を迎るために、さまざまな支援を行なっている。住宅支援や子育て支援制度も充実しており、ファミリー世帯にも暮らしやすい町だ。

移住・定住応援補助金

奥多摩町では、次代を担う若者等の定住を応援するため、定住を目的として住宅の購入・リフォーム等をして方に対して、事業費10万円以上で、事業費の1/2以内、最大200万円の補助金を交付します。事業補助金の限度額200万円を超えて、次の条件に当てはまる場合は、町内で使える各自10万円ずつの商品券を上乗せて補給します。

- 1) 奥多摩町内に所在する事業所等に事業を依頼した場合
- 2) 設、床等に地場木材(多摩産材)を10m以上使用した場合

◎年齢条件 下の方を対象にしています。

- 45歳以下の夫婦
- 18歳以下の子どもを持つ世帯

• 35歳以下の方

住宅資金借入の利子補給

奥多摩町では、次代を担う若者等の定住を応援するため、金融機関からの資金借入に対する利子補給を行っています。条件は、400万円以上の融資を受け、償還期間が10年以上であること、町内金融機関を利用する場合は、最大年額33万円まで補給します。給付期間は36ヶ月。

◎年齢条件 下の方を対象にしています。

- 45歳以下の夫婦
- 18歳以下の子どもを持つ世帯

• 35歳以下の方

子育て支援

子育てのしやすい町をめざし、町独自で15項目の子育て支援事業を行っています。入園・入学・進学等の支援や、保育料をはじめとした学校給食費・中学制服代・高校生通学定期代など、子育てを頑張っている方への負担を軽減するための助成があります。また、都の制度を拡充し、所得基準を超えた世帯にも医療費を全額助成します。

お問い合わせ: 奥多摩町定住応援総合窓口 Tel.0428-83-2310 http://www.town.okutama.tokyo.jp

Edit & Text & Photo: Yukiko Soda [miguel] Piroshi Utsunomiya [miguel] Art direction: Atsushi Kodani Illustration: Toshiyuki Hirano

発行: 東京都奥多摩町 http://www.town.okutama.tokyo.jp 編集&制作: 株式会社ミゲル〒198-0101 東京都西多摩郡奥多摩町大丹波640 miguel@dg8.so-net.ne.jp http://www.miguel-web.info
2021年10月発行 本誌は奥多摩町の各観光施設、JR青梅線各駅構内、都内協力店などで配布しています。店頭などで無料配布にご協力いただける施設を募集中です。ぜひお問い合わせください。

暮らす
奥多摩町に

自然がいちばん濃い TOKYO

